

2025 年度

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル） 自己点検・評価

椋山女学園大学  
大学情報教育開発センター運営委員会

## 1. はじめに

2024 年度から教養教育科目の領域 7「トータルライフデザイン」に新設された「AI・データと社会」は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に準拠し、2 年目の開講を迎えた。本稿では、2025 年度における本プログラムの実施状況および学生の学習成果について、自己点検・評価を行った結果を報告する。

## 2. プログラムの概要

- **科目名**：「AI・データと社会」（2 単位）
- **対象年次**：1・2 年次（後期開講）
- **実施形式**：オンデマンド形式（8 名の教員によるオムニバス形式）
- **L M S**：Google Classroom
- **評価方法**：全 15 回の課題（各 10 点満点）の合計点を 100 点満点に換算して成績評価を行った。前年度と同じく、出席確認（課題提出）が 11 回未満の場合は「失格」と判定する基準を継続した。

## 3. 履修者数および単位取得の状況

2025 年度は前年度（履修者 158 名）を大幅に上回る学生が履修し、全学部・学科への普及が進展した。単位取得者数は 505 名、単位取得率は 89.6%であり、履修者数の増加にもかかわらず、安定した履修成果が確認された。

表1 学部・学科別の単位取得状況一覧

学部 / 学科	履修者数	単位取得者数	単位取得率
生活科学部 管理栄養学科	75名	71名	94.7%
生活科学部 生活環境デザイン学科	72名	65名	90.3%
外国語学部 英語英米学科	31名	24名	80.0%
外国語学部 国際教養学科	30名	23名	79.3%
人間関係学部 心理学科	14名	12名	85.7%
人間関係学部 人間共生学科	2名	2名	100.0%
情報社会学部 情報デザイン学科	84名	77名	91.7%
情報社会学部 現代社会学科	80名	68名	85.0%
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	105名	91名	86.7%
教育学部 子ども発達学科	55名	51名	92.7%
看護学部 看護学科	21名	21名	100.0%
総計	567名	505名	89.6%

#### 4. 成績の分布

成績評価の結果、S評価（90点以上）およびA評価（80点台）の高評価層が厚い、安定した成績分布が確認された。内訳は、S評価 32.1%、A評価 32.3%、B評価 16.6%、C評価 8.1%、D評価 1.8%、失格 9.5%であった。

- **S・A評価**

多くの学科において、履修者の過半数がSまたはA評価に該当していた。特に、看護学部、生活科学部管理栄養学科、教育学部子ども発達学科（保育・初等教育専修）、情報社会学部情報デザイン学科では、S・A評価の学生が履修者の7割を超えており、高い学習成果が示された。

- **失格者（11回未満の出席）**

全学部合計で54名が失格と判定された。これらの学生の多くは、未提出課題が10回を超える学習放棄型または中途離脱型であり、今後の個別的な学修支援体制の強化が課題である。

#### 5. 授業アンケートの結果とリフレクション

2025年度後期に実施した授業アンケートでは、履修者567名中88名（回答率15.5%）から回答が得られた。回答率は限定的であるものの、全体として非常に高い満足度が示された。

- **総合的充実度**  
肯定的な回答（「そのとおりである」および「どちらかといえばそのとおりである」）が 95.4%であった。
- **内容の理解度**  
92.0%の学生が「おおよそ理解することができた」と回答している。
- **知見の拡大**  
93.2%の学生が、この授業を受けて「ものの見方や考え方を広げることができた」と評価している。
- **授業の工夫**  
教員が理解しやすいよう工夫していたと感じる学生は 89.8%にのぼり、オンデマンド形式ながら適切な指導が行われていたと受け止められていると言える。

自由記述からは、以下のような成果が確認された。

- **苦手意識の軽減**  
「これまで苦手意識を持っていたパソコンやデータの内容を、基礎から学び直すことで理解を深められた」といった意見が寄せられた。
- **オンデマンド形式の有効性**  
自分のペースで動画を繰り返し見直したり、資料を活用したりすることで、着実に理解を積み上げることができたとの評価が得られた。
- **多角的な学び**  
AI の仕組みや利活用に加え、危険性や個人情報保護などの倫理的側面についても学べたことが収穫として挙げられていた。
- **実用性**  
IT パスポート試験対策や実社会での AI 活用において有益であると感じる学生も多かった。

一方で、以下の課題も明らかとなった。

- **難易度の高い単元**  
数学的要素（数列など）やアルゴリズムの理解に苦戦する学生が見受けられ、「難しい単元での復習機会が欲しい」という要望があった。
- **LMS 上でのタスク管理の煩雑さ**  
課題の提出期限と新規課題のアップロード時期が重なる際、システムの表示や管理が複雑で、提出ミスを誘発しそうになったという指摘があった。
- **学生自身の反省：**  
見直し不足による「凡ミス」をなくしたいという、理解度確認プロセスの強化を求める声があった。

これらのことを踏まえ、次年度以降、解説の平易化、補足資料の充実、LMS 上の課題提示方法の整理を進める予定である。

## 6. まとめ

2025 年度の履修状況から、実習や資格取得対策等により学修負担の大きい学科においても、高い単位取得率と良好な成績が確認された。これは、オンデマンド形式が学生の学修環境に適合し、学修時間の柔軟な確保を可能にしたためであると考えられる。また、1 年生と 2 年生の間で成績水準に大きな差は見られず、学年に依存しない安定した学修成果が示された。

さらに、2026 年度からは、全学部の履修の手引きへの「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の掲載および履修ガイダンスでの周知を行った。今後は、こうした情報提供の取組を継続しつつ、大規模履修に伴う学修成果の二極化防止と中途離脱の未然防止に向けたフィードバック体制の強化が求められる。

2026 年 5 月 2 日